第５回 JSPS-LEADSNET 事業研究者交流会 研究者交流における主な意見

○コロナ下での国際共同研究及び海外での研究

・海外渡航について時期の変更や渡航中断などが起きており、未だに影響が残っている。受入先から延期や中止の要請があったり、所属機関から渡航を止められたり、ビザが下りなかったり、家族に止められたりと、態様は多岐にわたる

・渡航できない場合でもオンラインでの個別ミーティングやラボミーティングへの参加などで、バーチャルではあるものの物理的なつながりが維持できるようにしている

・本当は自分で出向いて調査等を行いたいが、そうできない場合、とにかくまめに連絡を取ることが重要。それでも不自由はある

・渡航する代わりに現地とサンプルを共有して進めるような実験を進めようとしたが、知財の関係で研究機関同士での契約等が必要な場合があった。書類の取り交わしなど事務手続きに非常に苦労したので、こういう研究はたくさんはできないと感じた

・渡航先を決める際、研究会等で知り合った研究者にコンタクトを取ることもあると思うが、コロナでそうした機会が減少している

・コロナのおかげでリモートのミーティングが当たり前になり、国際共同研究がやりやすくなった面もある。ただし、時差には苦労させられる

・フィールド研究や顔を合わせてのネットワーキングなど、海外に赴かなければできないことについては、リモートで埋め合わせようとしても限界がある。

・コロナ後の海外渡航に関しては、関係国の規制もさることながら、所属先や渡航先の判断が鍵になることが多い。特に所属先から渡航の許可をもらう点については交渉などで苦労した

○海外での研究活動や国際共同研究の進め方

・日本から給与が出ていると、せっかく海外に出てもお客さん扱いされて終わってしまう場合がある。共同研究にまで持っていくためには、テーマ設定等において自分がやりたいことが受入先の行っている研究にうまく関わるようにすることが重要

・ポストのこともあって渡航は避けたいと思う反面、やりたい研究（分野の状況）やボスとの相性、研究環境など、研究のことだけ考えれば海外に出た方がよいこともある。結局は個人の状況による

・海外の人は抜け目がないというか、国際共同研究を進める際、油断するとこちらが持っているアイデアやノウハウなどを持って行かれてしまうだけになることがある。相手方の選定にあたっては、お互いに利得があるように慎重な検討が必要

・途上国でのフィールドワークなどの場合、現地コミュニティとの関係が重要。初めは現地の共同研究者などに仲介してもらっていわゆるお偉いさんへの挨拶回りなどの対応を取ると思うが、これは非常に重要。少し慣れたからと言って突然下に入っていくとトラブルの元になる

・教育や行政など、国が違うと制度が異なるような研究を行っている場合、海外での研究はその国のことを知ること以上に、日本のことを知ることにつながる。あちらに行くとまず日本ではどうなのだと聞かれ、そこから矛盾を突かれたりして気付かされることが多い

〇現地の研究環境、日本との研究文化の違い

・設備・装置等について欧米では共用が基本で予算も多く、個別に所有しなければ使えない日本よりはやりやすい

・日本と比べ海外の方が独立性が高くやりたい研究ができる。特にラボ型の研究の場合、日本だと教授の意向に沿わなければならず、若手の自由度は減る

・議論や日常のコミュニケーションが重視される点は日本とは異なる。日本にいるときと同じようにしていると消極的ととられかねないので、意識的に取り組むべき

・海外に出れば研究スタイルの違いや考え方、トレンドの違いなどがあり、日本国内だけにいるよりは確実に視野が広がる。様々な困難はあると思うが、それだけの価値は必ずある

・国際化が進んでいない分野では、日本から来ました、といっても遊びに来たと思われている場合がある。然るべき海外のジャーナルに論文があれば見られ方が変わる。また、きちんとした成果が出ていても、未だに欧米の研究者が日本人などに対して「教えてやる」という意識で接しているように感じることがあり、そうした場合に自分の研究を認めてもらおうとするのは非常に困難

〇海外とのネットワーク形成・維持

・海外からの日本人ポスドクに対しての需要はあるものの、日本の若手研究者が内向きになっている実態がある。ただし、分野によって意識の違いがあり、数物系の一部では外に出るのが当然というところもある。背景にはキャリアを巡る事情の違いがあるのではないか。国内だけでキャリアを積めればあえて外に出る必要がない、ないし外に出ることで国内のコネクションが切れるとその後のポスト獲得が難しくなるという分野もある

・海外だと（研究の方向性の一致などより先に）個人ベースの人間関係の構築が重要になることが多い。文化的な背景もあると思うが、まずは挨拶やおしゃべりと言ったコミュニケーションをとることが大事

〇共同研究者・渡航先機関や所属機関との調整

・経費の執行について、日本の所属機関との調整が大変。また、それに加えて海外の所属機関のルールにも従わなければならない場合は両方をクリアする必要が出てさらに大変。また受入先の PI の方針にも経費の使い勝手が依存することがある

・現地での研究費の執行は日本の所属先発行のクレジットカードで立て替えることが多いと思うが、渡航先施設の使用料の支払いが外部扱いにされて２倍近くになったり、アカデミック向けの割引が使えなかったりと不自由が多い。渡航先のボスによっては手続きが複雑になるので立て替え払いはしないでくれ、という人までいて、そうなると全く物品が買えなかったりする。渡航先の機関に管理を委託するような形の執行にできないか

・特に動物やヒューマンサンプルを扱う研究や、倫理審査を通す必要がある研究などでは受入先機関が用意する講習等の受講が必要なことがあり、事前に問い合わせておくとよい

・特許申請やオーサーシップなどについて、渡航中はさておき帰国後も共同研究を続ける際やそこから派生した研究を行う際は注意が必要。事前に調整しておかないと後でトラブルが生じることがあり得る

〇海外での長期生活全般、現地生活情報、家族の帯同などについて

・税金の取り扱いなどはお金の出所や家族構成などに応じて変わることがあるので、自分の状況に近い人を探して情報収集するとよい

・研究に集中するためにも、家探しなどの生活の立ち上げは非常に重要

・保険に関して、日本からの給与額やビザの種類によっては受入先機関の保険に入れなかったりするので注意が必要で、早めに問い合わせるべき。任意保険で金額が高額な場合もある

・現地銀行口座（ネット銀行含む）は凍結などのリスクもないわけではないので、いざという時に当座のお金を用意できる方法を日本にいるうちに考えておくとよい（渡航後だと例えば日本での口座の開設は困難になる）

・米国など一部の国では給与相当額が現地最低給与を下回ると、受入先 PI に補ってもらうなどの対応が必要になる場合があるので、注意が必要

・円建てで資金をもらっているので円安の影響が非常に大きい。インフレも最近ひどいので、とにかく生活が大変